

平成29年度

科目名	音楽通論		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 4単位 選択
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 音楽を理論的に解釈し、演奏に活かすことができる力を養うために、音楽を学ぶ上での基礎となる知識を習得する。 〔授業全体の内容の概要〕 Ⅰ期においては楽典を学び、楽譜を正しく読むための基礎知識を身に付ける。Ⅱ期においては楽式アナリゼを学ぶことにより、音楽の仕組みや成り立ちについて理解する。			
達成目標	〔到達目標〕 楽譜に書かれていることを理論的に解釈し、演奏に活かすことのできる基本的な力を身につける。 〔履修カルテの評価項目〕 ①音程、音階、調の相互関係などを正しく理解しているか。 ②移調、転調、調の判定など理解しているか。 ③楽曲の構造を正しく理解しているか。			
受講資格	音楽科 1 年		成績評価 方法	試験 8 0 % 平常点 2 0 %
教科書	『楽典』音楽之友社。『和声と楽式のアナリゼ』島岡譲著 音楽之友社。			
参考書	授業内で案内する。			
学生への要望	音楽を学ぶ上での基礎であり、理解しておかなければならない分野なので、積極的に授業に取り組んで欲しい。			
オフィスタイム	水曜日のⅣ限、木曜日のⅠ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：授業の箇所を前もって教科書等で学習しておくこと（1時間） 復習：授業の内容を振り返り、課題に取り組むなどして、より理解を深めておくこと。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	導入 音、純正律と十二平均律	音楽通論に対する説明、授業の進め方、評価方法の説明。 音の種類や純正律や平均律について学ぶ。
2	譜表と音名	五線、音部記号、譜表、音名、変化記号について
3	音符と休符	音符、休符の種類と長さ、連符、タイについて
4	リズムと拍子Ⅰ	リズム、拍と拍子、拍子の表記
5	リズムと拍子Ⅱ	強起と弱起、拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション
6	音程	度数、複音程、音程の転回
7	音階Ⅰ	長音階、短音階、調
8	音階Ⅱ	調の相互関係、移調と転調
9	音階Ⅲ	調判定
10	音階Ⅳ	調判定の解答法Ⅰ、教会旋法、全音音階
11	音階Ⅴ	調判定の解答法Ⅱ、練習問題
12	コードネームⅠ	コードネームの種類
13	コードネームⅡ	コードの機能と進行
14	コードネームⅢ	コード進行の理解と、簡単な伴奏付
15	コードネームⅣと音楽理論 の総括	コード進行の理解と簡単な伴奏付、音楽理論のまとめと確認
16	和声分析の方法について	和音の知識を活用し、実際の楽曲で分析する。アナリゼの基本となる知識を学ぶ。
17	非和声音の種類について	旋律の中で、和音構成から外れている非和声音について学ぶ。
18	カデンツの型について	3種類のカデンツの型を学び、実際の楽曲で確認する。
19	2部形式	単純な2部形式について実際の楽曲を用いて学ぶ。
20	3部形式	3部形式について、実際の楽曲を用いて学ぶ。
21	転調について	簡単な楽曲を用い、調判定や和声分析を通して転調を理解する。
22	複合3部形式	実際の楽曲を用い、複合3部形式について学ぶ。
23	ソナタ形式Ⅰ	ソナチネを用いて、ソナタ形式について学ぶ。
24	ソナタ形式Ⅱ	前回の授業を継続し、古典派のソナタも分析し理解を深める。
25	変奏曲	変奏曲形式について、実際の楽曲を用いて理解する。
26	バッハ：インベンションの 分析Ⅰ	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリゼの基本となる知識について学ぶ。
27	バッハ：インベンションの 分析Ⅱ	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリゼの基本となる知識について学ぶ。
28	バッハ：インベンションの 分析Ⅲ	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリゼの基本となる知識について学ぶ。
29	バッハ：インベンションの 分析Ⅳ	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリゼの基本となる知識について学ぶ。
30	アナリゼについてのまとめ	和音や非和声音、形式について復習・確認をし、アナリゼの仕方、考え方などの理解を深める。

科目名	和声学Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 4単位 選択
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 機能と和声の基礎を習得します。カデンツの仕組みや連声についての基本を学びます。 「授業の内容の概要」 属9の和音と簡単な転調を理解するまでが目標です。音楽理解の基礎となる分野なので初歩から丁寧に学びます。			
達成目標	「授業修了時の到達度」 更に進んだ内容については和声学Ⅱ、作曲法等で補填しますが、四声体の課題がスムーズに解けるようにします。 【履修カルテの評価項目】 ①各種和音や調についての理解が来ている。 ②カデンツについて理解している。 ③和声進行や配置についての理解が来ている。			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	試験80%、平常点20%	
教科書	「学生のための和声の要点」サーベル社			
参考書	なし			
学生への要望	すべての音楽の基礎となる科目であり予習、復習が重要です。			
自学自習	事前学習：教科書を読んでわからない所を把握しておく事。（1時間） 事後学習：和声課題の実施を進める事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	和音①	和音、3和音、3和音と音階、7の和音、基本形と転回形、和音記号の表記など和声学の基礎となる用語や和音形態について説明する。
2	和音②	和音、3和音、3和音と音階、7の和音、基本形と転回形、和音記号の表記など和声学の基礎となる用語や和音形態について説明する。
3	四声体の配置①	各声部の名称、各声部の音域、各声部間における配置の規則、四声体への配置、3和音基本形及び第2転回形の配置、3和音第1転回形の配置、7の和音の配置について学ぶ。
4	四声体の配置②	各声部の名称、各声部の音域、各声部間における配置の規則、四声体への配置、3和音基本形及び第2転回形の配置、3和音第1転回形の配置、7の和音の配置について学ぶ。
5	和音機能①	T（トニック）機能、D（ドミナント）機能、和音機能による和声進行の規定。D2からD6までの働き、仕組みについて学習する。
6	和音機能②	T（トニック）機能、D（ドミナント）機能、和音機能による和声進行の規定。D2からD6までの働き、仕組みについて学習する。
7	D－Tの連結	連結の規定、声部進行の規定、V－Iへの連結、V－I（1転）の連結、属7－I（転回形含む）の連結。
8	T－D－Tの連結	I－V（2転）－I（1転）I（1転）－V（2転）－Iの連結。2転の使い方について学ぶ。
9	T－Tの連結	I－I（1転）およびI（1転）－Iの連結。
10	TとD諸和音との連結①	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
11	TとD諸和音との連結②	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
12	TとD諸和音との連結③	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
13	Ⅱ（1転）（D2）の和音	Ⅱ（1転）の配置、Ⅱ（1転）－V（属7含む）の連結。
14	Ⅱ（1転）（D2）の和音	Ⅱ（1転）の配置、Ⅱ（1転）－V（属7含む）の連結。
15	I（2転）－V（属7含む）の連結①	I（2転）－V（属7含む）を用いた全終止、I（2転）－Vを用いた半終止、D2を含むバス課題の実施方法、D2を含むソプラノ課題の実施方法。
16	I（2転）－V（属7含む）の連結②	I（2転）－V（属7含む）を用いた全終止、I（2転）－Vを用いた半終止、D2を含むバス課題の実施方法、D2を含むソプラノ課題の実施方法。
17	属7（2転）－I（1転含む）の連結	属7（2転）－Iの連結、属7（2転）－I（1転）の連結。
18	Ⅵ（T）の和音	V（属7含む）－Ⅵの連結、I（1転含む）－Ⅵの連結。
19	Ⅳ（1転含む）（D2）の和音	Ⅱ（1転）の代用、Ⅳ（1転）、終止以外の箇所のⅣ（1転含む）、D2の運用。
20	Ⅳの和音	S（サブドミナント）機能、S機能における和音進行の限定、SとしてのⅣ、T－S－Tの連結、和声進行における機能の連結規則のまとめ。
21	借用和音①	副次調、借用和音、副Ⅴの和音、ドッペルドミナント、D2諸和音－ドッペルドミナント、D2諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副Ⅴの和音、V－副Ⅴ諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
22	借用和音②	副次調、借用和音、副Ⅴの和音、ドッペルドミナント、D2諸和音－ドッペルドミナント、D2諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副Ⅴの和音、V－副Ⅴ諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
23	借用和音③	副次調、借用和音、副Ⅴの和音、ドッペルドミナント、D2諸和音－ドッペルドミナント、D2諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副Ⅴの和音、V－副Ⅴ諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
24	根音省略形	根音省略形、属7の根音省略形、ドッペルドミナントの根音省略形。
25	属9、副属9の和音①	属9の和音、属9の和音の準固有和音、ドッペルドミナントの9、ドッペルドミナントの9の準固有和音、ドッペルドミナントの下方変位、副属9の和音。
26	属9、副属9の和音②	属9の和音、属9の和音の準固有和音、ドッペルドミナントの9、ドッペルドミナントの9の準固有和音、ドッペルドミナントの下方変位、副属9の和音。
27	Ⅱの7の和音①	Ⅱの7の和音と配置、D諸和音への連結、先行和音からⅡの7の和音への連結、ソプラノ課題におけるⅡの7とⅡ（1転）の使い分け、Ⅱの7からドッペルドミナント諸和音への連結、Ⅱの7を含む定型。
28	Ⅱの7の和音②	Ⅱの7の和音と配置、D諸和音への連結、先行和音からⅡの7の和音への連結、ソプラノ課題におけるⅡの7とⅡ（1転）の使い分け、Ⅱの7からドッペルドミナント諸和音への連結、Ⅱの7を含む定型。
29	転位音①	和声音と非和声音、定位と変位、転位音の種類、転位音を含むときの配置上の規則、I度上の属7の和音、転位音から転位音への進行、定位音による修飾、同種和音の連結。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	転位音②	和声音と非和声音、定位と変位、転位音の種類、転位音を含むときの配置上の規則、Ⅰ度上の属7の和音、転位音から転位音への進行、定位音による修飾、同種和音の連結。

科目名	和声学Ⅱ		対象 単位数 必須	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	Ⅲ			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 和声学Ⅰで学んだ基礎をもとに和声学Ⅱでは対位法を中心に学習します。対位法は原語ではContra Punctus(Punctus Contra Punctus)の意味であり、広義には旋律対旋律という意味です。このように、旋律対旋律の形成は音楽の本質として現代まで伝承され、現代では単に作曲技法に留まらず多声部音楽を理解する上で欠くことのできない学習です。 「授業の内容の概要」 はじめは和声学の不足部分を補い、旋律対旋律の初歩の書き方から学びます。			
達成目標	「授業修了時の達成度」 二声対位法の仕組みを理解し、自由な発想で書ける事を目標とします。 【履修カルテの評価項目】 ①定旋律に対して適切な対旋律が書ける。 ②1対自由まで理解している。 ③カノンやフーガの基礎を理解している。			
受講資格	短大音楽科2年生		成績評価 方法	試験80％、平常点20％
教科書	「対位法」音楽之友社			
参考書	なし			
学生への要望	音楽の専門教科で特に難解であるため、復習が大切であり、実習が大切です。			
自学自習	事前学習：前回の課題を復習しておく事。（1時間） 事後学習：前回の復習と共に、次回の予習をして置く事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	対位法の定義	対位法とは定旋律と規範的対旋律の協唱である事を学習する。
2	定旋律と対旋律①	対位法と音楽の成り立ちについて。 定旋律と対旋律について。
3	定旋律と対旋律②	定旋律の性格とその形成について。
4	定旋律と対旋律③	対旋律の形成と和声的関連性について。 非和声音と旋律動向について。
5	定旋律と対旋律④	定旋律と対旋律との和声的関連性について。
6	定旋律と対旋律⑤	対旋律を創るにあたって留意点について。 アクセント旋律動向について。
7	定旋律と対旋律⑥	和声的動向、結尾等の形成について。
8	二分音符対位法①	二声対位法を実際に創り、定旋律と対旋律の旋律動向を学習する。
9	二分音符対位法②	二分音符対位法を実習和声で学習した四声体和声連結を参考にして。
10	二分音符対位法③	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。
11	二分音符対位法④	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。
12	四分音符対位法①	旋律動向において非和声音の使い方を理解し、対旋律の音楽的動向と和声との関係について。
13	四分音符対位法②	四分音符対位法の実習。
14	四分音符対位法③	四分音符対位法の実習和声的動向において音楽的禁則を学習する。
15	移勢対位法	移勢対位法についての説明と分析。

科目名	音楽史	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 4単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 音楽と時代的背景の係わりを理解し、歴史の推移に伴う音楽の変化を様式の変化として捉える。 〔授業全体の内容の概要〕 古代音楽から、20世紀の音楽をそれぞれの時代の流れに沿って学習する。また、民族音楽について学習する。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 知識としての音楽史を、実際の演奏活動等に生かすことができる。 【履修カルテ評価項目】 1. 音楽の変遷の大きな流れを把握できたか。 2. 歴史の推移に伴う音楽の変化を様式の変化として理解できたか。 3. 音楽と時代的背景の係りを理解できたか。			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	平常点20% レポート80%	
教科書	『新音楽史』 H.M. ミラー著 東海大学出版			
参考書	『グラウト 西洋音楽史』 上下 音楽之友社			
学生への要望	知識としての音楽史にとどまらず、実際の音楽活動に役立てたい。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			
自学自習	予習：授業の内容に対し、教科書をあらかじめ読んでおくこと。（1時間） 復習：授業の内容をふまえて、さらにその時代の楽曲等を調べ、視聴すること。（1時間）			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	古代文明の音楽①	人間生活と一体になっていた音楽を理解する。
2	古代ギリシアの音楽②	古代オリエントからの影響で形成した音楽を、さらに、初期キリスト教音楽に受け渡すという視点で考える。
3	古代ローマ時代の音楽	古代ローマ時代に各地で展開された初期キリスト教音楽が、グレゴリオ聖歌に集束されていく事情を勉強する
4	中世の音楽①	多声音楽の出現と発展を、キリスト教音楽の中で見ていく。
5	中世の音楽②	多声音楽の出現と発展を、キリスト教音楽の中で見ていく。
6	ルネサンス音楽①	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
7	ルネサンス音楽②	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
8	ルネサンス音楽③	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
9	バロック音楽①	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
10	バロック音楽②	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
11	バロック音楽③	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
12	バロック音楽④	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
13	バロック音楽⑤	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
14	古典派音楽①	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
15	古典派音楽②	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
16	古典派音楽③	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
17	古典派音楽④	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
18	古典派音楽⑤	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
19	ロマン派音楽①	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
20	ロマン派音楽②	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
21	ロマン派音楽③	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
22	ロマン派音楽④	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
23	ロマン派音楽⑤	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
24	ロマン派音楽⑥	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
25	20世紀の音楽①	20世紀の音楽の音楽について勉強する。
26	20世紀の音楽②	20世紀の音楽の音楽について勉強する。
27	日本音楽	日本音楽のリズムと旋法について学ぶ。
28	バリ島の音楽と舞踊	バリ島の楽器、音楽的特質を学ぶ。
29	朝鮮半島の民族音楽と舞踊	韓国の国学の種類と舞踊の特質を学ぶ。
30	まとめと確認	音楽史全体のまとめと確認

科目名	作曲法		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 楽式アナリーゼや和声学、対位法の学習を踏まえて作品制作に取り組みます。この事は実際の作品理解に大きく役立つものです。 「授業全体の内容の概要」 楽器論、編曲法についても学び、大きな視点から演奏の手助けとなるような音楽経験をします。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 作品の制作過程を知る事により、演奏の手助けとなるような音楽経験をします。 【履修カルテの評価項目】 ①和声学や対位法についての基礎知識がある。 ②美しいメロディーを作ることができる。 ③楽器や編曲法について理解している。			
受講資格	音楽科2年		成績評価 方法	作品評価80%、平常点20%
教科書	「学生のための和声の要点」 サーベル社			
参考書	対位法、和声学			
学生への要望	作曲を専門にする事ではなく、音楽理解において必要な事柄なので積極的に取り組んで下さい。			
自学自習	事前学習：制作中の作品をできる範囲で進めておく事。（1時間） 事後学習：注意点を復習し、手直しする事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	特殊和音 1 ドッペルドミナント	和声学（1年次）では時間の関係で進度が限られており、ここでは実際に役立つ様々な和音の説明と用法について学習する。 1としてドッペルドミナントの説明。
2	特殊和音 2 副V度	副V度の考え方と用法。実際の例で説明。簡単な旋律を作り、副V度を使ってみる。基本的にドッペルドミナントと副V度の使用について理解をする。 ここでは1年次の全調カデンツが役に立つはずである。
3	特殊和音 3 準固有和音	準固有和音と借用和音について例を挙げて説明。響き、用法などを会得する。楽曲の様式感とも関わることなので効果的に活用することを学ぶ。 またここでは終始法、カデンツの原理について再度学ぶ。
4	特殊和音 4 ナボリのⅡドリアのⅣ	ナボリのⅡ、ドリアのⅣについて説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。
5	特殊和音 5 フックスのⅤラモーの五六	フックスのⅤ、ラモーの五六について説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。
6	特殊和音のまとめ 1	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練をする。簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。
7	特殊和音のまとめ 2	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練の2。 簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。
8	特殊和音のまとめ 3	前2授業の作品を完成させる。提出、評価。
9	変奏 1	変奏は作曲学上最も大事な技術の一つである。変奏の実際について様々な例から学ぶ。 実技を通して数多くの変奏を試みる。
10	変奏 2	変奏の実際についての続き。 数多くの変奏を試みることによってより理解を深める。
11	変奏曲 1	簡単な変奏曲の作曲。テーマは自作でも既成の楽曲でも良いが、無理のない自然な変奏が出来るよう心がける。
12	変奏曲 2	前週の作業の続きを行う。
13	変奏曲 3	前週の作業の続きを行う。
14	変奏曲 4	変奏曲の完成。提出、評価。
15	管弦楽法	管弦楽法への導入。 合奏の諸形態、響きについての説明などを行いⅣ期に行う管弦楽法への導入とする。
16	管弦楽法、楽器論①	Ⅳ期は主に管弦楽法を学び、楽曲の編曲を行う。 楽器論①としてフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットなど木管楽器の特性について学ぶ。
17	管弦楽法、楽器論②	楽器論②としてホルン、トランペット、トロンボーン、チューバなど金管楽器の特性について学ぶ。 素材、奏法など。
18	管弦楽法、楽器論③	楽器論③としてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスなど弦楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。
19	管弦楽法、楽器論④	ティンパニ、バスドラム、スネアドラム、その他打楽器は種類が多い。その中から主にオーケストラや吹奏楽で用いられる打楽器について学ぶ。
20	管弦楽法、楽器論⑤	特殊楽器や打楽器などについて補足説明。
21	管弦楽法	各楽器の組み合わせ方や管楽器と弦楽器の音量の違い、バランスなど実際の管弦楽作品を参考にしながら研究する。
22	管弦楽法、編曲①	ソナチネなどの簡単なピアノ曲を木管アンサンブルやその他の室内楽作品としてアレンジする。 学生間でアンサンブルできる編成が望ましい。
23	管弦楽法、編曲②	授業の中で実際に編曲する。楽器の使い方、技術面の特性など編曲しながら考える。一人ひとりの疑問に答え、添削も行う。 以下3回にわたりこの作業を続ける。作業①
24	編曲②	前週の続き作業② 質問を受けながら作ってゆく。
25	編曲③	前週の続き作業③ 質問を受けながら作ってゆく。
26	編曲④	編曲の仕上げを行い、パート譜の作成をする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
27	編曲のまとめ	数名の作品を選び、学生同士で演奏し、それぞれの作品について聴きあい、批評しあう。 提出、評価。
28	歌曲①	歌曲は無駄がなく、もっとも技術を要する。言葉を伴うことから詩句の解釈や日本語のイントネーションを吟味し、必然性のあるメロディを作成することが要求される。
29	歌曲②	それぞれ選んだ詩について歌曲を作成。これを前回同様2回にわたって行う。作業①
30	歌曲③	作業②歌曲の仕上げ、清書して完成させる。提出、評価。

平成29年度

科目名	指揮法		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	Ⅲ			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 指揮法は単に指揮の仕方を学ぶだけではなく表現力や楽曲の分析、音楽に対してどう向き合うかを学ぶものです。 「授業全体の内容の概要」 音楽を正しく理解し表現する力を習得します。合唱やオーケストラの指揮の実際を学びます。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 楽曲を分析し、正しく伝える技術を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①図形を正しく振る事ができる。 ②作品を正しく解釈することができる。 ③自分の意思を明確に伝えられる。			
受講資格	音楽科2年		成績評価 方法	実技試験80％、平常点20％
教科書	斉藤秀雄著「指揮法教程」音楽之友社			
参考書	なし			
学生への要望	オーケストラや合唱を指揮するということは作品をどれだけ知っているかにかかります。広い視野から音楽に向き合う姿勢が大事で			
自学自習	事前学習：あらかじめ練習する曲のスコアを読んでおく事。（1時間） 事後学習：授業の結果を踏まえて改善点を整理する事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	指揮とは何か、指揮者の必要性とは何か、について学ぶ。
2	基礎訓練①	叩きは指揮の基本である。平均運動、加速、減速について練習する。
3	基礎訓練②	叩きと各拍子について。 図形について。
4	ウェーバー・ヴァリエーション①	ウェーバーのヴァリエーションを教材として予備、平均運動の練習。
5	ウェーバー・ヴァリエーション②	曲中にあるフェルマータ、rit. やcrescendoの振り方についての練習、強弱やアインザッツについての練習。
6	あかるい日の歌Ⅱ	変拍子、8分の8、8分の7、8分の5などの振り方、分割、省略について。
7	ハイドン・アレグロ ①	ハイドンのアレグロを教材に打法の練習。
8	ハイドン・アレグロ②	裏拍の指示の仕方、テンポの速い曲への対応の仕方。
9	ベートーヴェン交響曲第1番 ①	ベートーヴェンの交響曲第1番の第1楽章序奏の部分振る。 スコアの見方について学ぶ。
10	ベートーヴェン交響曲第1番 ②	分割の仕方、楽器の特性、音色の変化など。
11	ベートーヴェン交響曲第1番 ③	休符の処理、tuttiのアインザッツ。 各パートへのアインザッツ。
12	ベートーヴェン交響曲第1番④	音源を聴きイメージを作る。 弓、プレスと棒の関係。
13	ベートーヴェン交響曲第1番⑤	全体を振る。 批評しあう。
14	ベートーヴェン交響曲第1番⑥	全体を振る。 批評しあう。
15	ベートーヴェン交響曲第1番 ⑦	指揮法のまとめ。

平成29年度

科目名	声楽Ⅰ（主科）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 4単位 選択	
担当教員	磯部 哲夫、割谷 由美子				
開講期	通年				
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。				
達成目標	〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③感性を生かした歌曲表現ができただか。				
受講資格	音楽科1年		成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集				
参考書	特になし				
学生への要望	1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。				
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室				
自学自習	予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	声楽に対しての心構え、練習方法、レッスンの進め方、評価方法について説明
2	発声法・1	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程、跳躍音程による発声
3	発声法・2	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程、跳躍音程による発声 ④歌曲のフレージング処理法について解説する
4	イタリア古典歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
5	イタリア古典歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
6	イタリア古典歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
7	イタリア古典歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
8	イタリア古典歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
9	イタリア古典歌曲・6	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
10	前期まとめと小テスト	イタリア古典歌曲集より選択した楽曲
11	イタリア古典歌曲・7	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
12	イタリア古典歌曲・8	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
13	イタリア古典歌曲・9	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
14	イタリア古典歌曲・10	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	イタリア古典歌曲・11	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する ④ステージマナーについて解説する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法について説明
17	ドイツ歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
18	ドイツ歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
19	ドイツ歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
20	ドイツ歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
21	ドイツ歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
22	日本歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
23	日本歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
24	日本歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
25	日本歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
26	後期試験曲・1	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
27	後期試験曲・2	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
28	後期試験曲・3	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
29	後期試験曲・4	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
30	後期試験曲・5	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する

平成29年度

科目名	声楽Ⅰ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を習得。 ②原語発音・・・正確なイタリア語、ドイツ語の発音の習得 ③歌唱法・・・発声を活かし、自然な息の流れを意識したフレージングを身に付ける。 〔授業全体の内容の概要〕 ①歌唱の姿勢、腹式呼吸といった発声の基本を身に付け、それを活かした息の流れで楽曲をフレージングする歌唱を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達成目標	〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 発声の基本を正確に身に付け、その発声を活かした歌唱法で歌唱することができるようにする。 ①基本姿勢、腹式呼吸を習得できたか。 ②正確な原語発音ができただか。 ③自然な息の流れで楽曲をフレージングできたか。			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書	コンコーネ50番 イタリア古典歌曲集 イタリア近代歌曲集 ドイツ歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	声楽Ⅰ（副科）では発声法と歌唱法の基本の習得を目標とする。レッスンの積み重ねが重要となるので、基本動作をしっかりと習得する。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンに当たっての心構え、レッスンの進め方、ローテーション、評価方法についての説明
2	発声法・1	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程による発声
3	発声法・2	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程による発声 ④歌唱におけるフレージングについて解説する
4	コンコーネ５０番・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ５０番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
5	コンコーネ５０番・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ５０番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
6	コンコーネ５０番・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ５０番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
7	コンコーネ５０番・4、イタリア古典歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅰ ②コンコーネ５０番より指定された楽曲の歌唱法を解説する ③イタリア語ディクション
8	コンコーネ５０番・5、イタリア古典歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅱ ②コンコーネ５０番より指定された楽曲の歌唱法を解説する ③イタリア語ディクション ④イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
9	イタリア古典歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅲ ②イタリア語ディクション ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
10	イタリア古典歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅳ ②イタリア語ディクション ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
11	イタリア古典歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅴ ②イタリア語ディクション ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
12	イタリア古典歌曲・6	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅵ ②イタリア語ディクション ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
13	イタリア古典歌曲・7	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅶ ②イタリア語ディクション ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	イタリア古典歌曲・8	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸区 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
15	イタリア古典歌曲・9	①発声についての前期のまとめ ②イタリア語発音についての前期のまとめ ③イタリア古典歌曲の歌唱法についての前期のまとめ
16	後期ガイダンス	イタリア古典歌曲、イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲のレッスンの進め方、ローテーション、評価方法についての説明
17	イタリア古典歌曲・1	①発声法・・・共鳴法について解説 ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲の楽曲研究と歌唱法の解説。
18	イタリア古典歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸と共鳴の流れについて解説Ⅰ ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲の楽曲研究と歌唱法の解説。
19	イタリア古典歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸と共鳴の流れについて解説Ⅱ ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説。
20	イタリア近代歌曲・1	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅰ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
21	イタリア近代歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅱ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
22	イタリア近代歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅲ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
23	イタリア近代歌曲・4	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅳ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
24	イタリア近代歌曲・5	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅴ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
25	ドイツ歌曲・1	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅵ ②ドイツ語の発音について ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
26	ドイツ歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅶ ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
27	ドイツ歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅷ ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
28	ドイツ歌曲・4	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅸ ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
29	ドイツ歌曲・5	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅹ ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
30	後期まとめ	①発声法についての後期のまとめ ②イタリア語、ドイツ語の発音についての後期のまとめ ③イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲についての楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ

科目名	声楽Ⅱ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	磯部 哲夫、割谷 由美子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達成目標	〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。			
受講資格	音楽科1年		成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

科目名	声楽Ⅱ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	割谷 由美子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
オフィスタイム	月火 レッスン室No.1			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

平成29年度

科目名	声楽Ⅱ（副科）	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・腹式呼吸、共鳴の修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語またはドイツ語の発音の修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①1年次で修得した発声法を活かし、各原語に合った歌唱法を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達成目標	〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正しい発声、各原語による歌唱法を修得し、歌唱表現ができるようにする。 ①横隔膜を広げ、下腹部で支える腹式呼吸で息を流し声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③常に頭部前方へ息を流し、言葉の発音を結びつけ歌唱しているか。			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	平常店10点 実技試験90点	
教科書	イタリア古典歌曲集Ⅰ、Ⅱ イタリア近代歌曲 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	レッスンでの指摘を把握し、次回には改善が見られるように、日々の練習に励むこと。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明
2	日本歌曲・1	①発声法・・・1年次の復習 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
3	日本歌曲・2	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
4	日本歌曲・3	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
5	日本歌曲・4	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
6	日本歌曲・5	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
7	日本歌曲・6	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅲ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
8	日本歌曲・7	①発声・・・共鳴法と頭声の習得Ⅳ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
9	日本歌曲・8	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅴ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
10	日本歌曲・9	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅵ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
11	日本歌曲・10	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅶ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
12	日本歌曲・11	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
13	日本歌曲・12	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅸ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	日本歌曲・13	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得X ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
15	前期まとめ	①発声法のまとめ ②日本語発音のまとめ ③日本歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法についての説明
17	各原語による歌曲・1	①発声法の総合的な習得I ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
18	各原語による歌曲・2	①発声法の総合的な習得II ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
19	各原語による歌曲・3	①発声法の総合的な習得III ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
20	各原語による歌曲・4	①発声法の総合的な習得IV ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
21	各原語による歌曲・5	①発声法の総合的な習得V ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
22	各原語による歌曲・6	①発声法の総合的な習得VI ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
23	各原語による歌曲・7	①発声法の総合的な習得VII ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
24	各原語による歌曲・8	①発声法の総合的な習得VIII ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
25	各原語による歌曲・9	①発声法の総合的な習得IX ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
26	各原語による歌曲・10	①発声法の総合的な習得X ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
27	各原語による歌曲・11	①発声法の総合的な習得XI ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
28	各原語による歌曲・12	①発声法の総合的な習得XII ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
29	各原語による歌曲・13	①発声法の総合的な習得のまとめ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
30	後期まとめ	①発声法のまとめ ②各原語の発音についてのまとめ ③各原語による歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ

科目名	ピアノⅠ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
担当教員	深谷 登喜子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 多声部音楽、古典派の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②バッハの作品を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を通して、古典楽曲の演奏法をある程度理解できましたか。			
受講資格	短大音楽科1年		成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%
教科書	ツェルニー、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を進度に応じてその都度指示。			
参考書	特になし。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12：00～12：50 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：授業に向けて課題を練習しておく。（2時間） 事後学習：授業での反省を踏まえて、確認練習をする。（2時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタの学習。正確な読譜力を身につける。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタを楽式的に分析し、楽曲表現の学習に役立てる。
11	基礎技術の学習まとめと確認	練習曲を演奏し、これまでの学習の成果を確認する。 また、その反省を活かして今後の学習方法についての確認を行う。
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小曲の学習。正確な読譜力を身につける。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 後期の試験に備えて、ベートーヴェンのソナタの正確な読譜。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ベートーヴェンのソナタの楽曲分析、様式などを学習する。またモーツァルトやハイドンのソナタとの違いを学習する。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。

科目名	ピアノⅠ（副科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	深谷 登喜子, 横溝 聡子				
開講期	通年				
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。				
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 多声部音楽、古典派等の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②多声部音楽を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③古典派の作品を通して、古典楽曲の演奏法をある程度理解できましたか。				
受講資格	短大音楽科1年		成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	ツェルニー、バッハ、古典派等の作品を進度に応じてその都度指示。				
参考書	特になし。				
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。				
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12:00～12:50 No.1音楽科研究室				
自学自習	事前学習：授業に向けて課題の練習をする。（1時間） 事後学習：授業の反省とその確認の練習をする。（1時間）				

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	ガイダンス	レッスンの進め方、1年間の学習方法や心構えについて説明。 次回の授業の課題の確認。
2	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
4	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
11	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
17	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
21	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
22	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。試験に向けて、正確な読譜と表現について考える。
23	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
24	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
25	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
26	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
27	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
28	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
29	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
30	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向け最終的な仕上げをする。

科目名	ピアノⅡ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	深谷 登喜子, 横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。			
受講資格	短大音楽科2年		成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12:00～12:50 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：当日の課題の確認と練習をしておく。（2時間） 事後学習：授業から学習したことの確認と練習をする。（2時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 卒業研究の曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

科目名	ピアノⅡ（副科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	深谷 登喜子, 横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏テクニック等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派や近現代等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。			
受講資格	短大音楽科2年		成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%
教科書	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12:00～12:50 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：課題に応じた練習が必要である。（1時間） 事後学習：授業の内容の確認に伴う練習をする。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 試験曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。

科目名	管楽Ⅰ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
担当教員	竹谷 陽二郎			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 金管楽器の演奏に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる 〔授業全体の内容の概要〕 金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 演奏法に関わる基礎および、プロフェッショナルな音楽性と演奏技術を習得する。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 金管楽器の演奏に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる 〔授業全体の内容の概要〕 金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 演奏法に関わる基礎および、プロフェッショナルな音楽性と演奏技術を習得する。			
受講資格	音楽科1年生		成績評価 方法	①出席及びレッスン受講態度(20点) ②期末実技試験 (80点)
教科書	J. Arban金管教本、 Kopprasch / 60のエチュード H. L. Clark / Technical Studies			
参考書	特になし			
学生への要望	資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週1回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。			
オフィスタイム	月曜日 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	ガイダンス	実技レッスンの進め方や評価方法などを理解する。 レッスンを受講するにあたり必要となる教則本や日常練習の必要性を認識する。
2	呼 吸 法	腹式呼吸の構造と重要性を理解し、A. ジェイコブス氏の呼吸法を解説する。
3	マウスピースの練習	マウスピース練習の仕方を習得し、ウォーミングアップの必要性を理解する。
4	リップスラーⅠ	基礎的なリップスラー及び、金管楽器におけるリップスラーの必要性和重要性を理解する。
5	リップスラーⅡ	オクターヴ以上のリップスラーを習得し、より柔軟かつバテ難い口輪筋を育てる。
6	音 階 練 習 Ⅰ	以下の長音階の運指構造を理解し、楽器の基本構造を理解する。(B-dur, F-dur, Es-dur)
7	リップスラーⅢ	2オクターヴ・リップスラーの練習内容を理解・習得する。
8	音 階 練 習 Ⅱ	以下の長音階の運指構造を理解し、美しい響きを理解する。 (C-dur, As-dur, G-dur, Des-dur, D-dur, Ges-dur)
9	J. Arban 教本Ⅰ	当該教本より、No. 11～No. 50基礎的な響きと癖の無いタンギング奏法を理解する。
10	音 階 練 習 Ⅲ	以下の長音階の運指構造を理解し、美しいタンギングと響きを理解・習得する。 (H-dur, A-dur, Fis-dur, E-dur)
11	音階練習のまとめと応用	全ての12長音階を早いテンポで演奏し、より安定したシラブルを習得する。
12	J. Arban教本Ⅱ	当該教本のシコペーションNo. 1～12で強弱表現の幅を広げ、正確な音程感を理解する
13	Kopprasch教本Ⅰ	当該教本を用いて、より音楽的な内容と技巧的な内容を習得する
14	H. L. Clark Technical StudiesⅠ	当該教本の練習方法解説と、日々の練習へ理解・導入する。
15	任意の小品曲	5～7分の小品を用いて、前授業内容の総合習得を確認する。
16	音 階 練 習 Ⅳ	以下の短音階の運指構造を理解し、美しい響きと安定感を習得する (g-moll , d-moll, c-moll, f-moll, a-moll, b-moll, e-moll, es-moll, h-moll)
17	J. Arban教本Ⅲ	当該教本内スラーとレガートにて、応用した高度なリップスラーの習得と技術向上をはかる。
18	J. Arban教本Ⅳ	当該教本内・音階にて技術と安定感を育成・習得する。
19	J. Arban教本Ⅴ	当該教本内・トリプルタンギングの構造と練習方法を解説し、理解・習得する。
20	Kopprasch教本Ⅱ	当該教本にてインターバルに対応できる高度な能力を習得する。
21	J. Arban教本Ⅵ	当該教本内ダブルタンギングの構造と練習方法を解説し、理解・習得する。
22	H. L. Clark Technical StudiesⅡ	当該教本No. 87～98にて、高度な技術・高音域の拡大と同時に、奏法の安定を養う。
23	J. Arban教本Ⅶ	当該教本内14の性格的練習曲を解説し、理解・習得する。
24	J. Arban教本Ⅷ	当該教本内12の幻想曲とアリアより任意の一曲を選択し、美しいテーマと高度な技術を応用した変奏曲を習得する。
25	フランス近代 小品	数多あるフランス近代作曲家の任意の小品を選曲し 技術的および音楽性の向上を深め、習得する。
26	バロック音楽	テレマン、タルティーニなどの小品を用いてバロック奏法の解説をし、理解を深める。
27	現代音楽	武満徹、リゲティなどの楽曲を用いて、現代奏法の理解・習得する。
28	ドイツ古典	J. ハイドン（もしくはJ. フンメル）トランペット協奏曲の構成研究、 および曲想の理解などを深め、体得する。
29	オーケストラ管弦法	数多あるオーケストラ曲内に存在する、難易度の高いパッセージへの 練習アプローチと習得方法を解説、理解する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	実技試験準備	実技試験曲のピアノ伴奏合わせにおいて準備方法、 音の色彩の引き出し方の提案、全体構成の方向性を習得する。

平成29年度

科目名	管楽Ⅰ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①管楽器演奏テクニックの問題点がある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法がある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。			
受講資格	短大音楽科1年生		成績評価 方法	実技試験 90％ 平常点10％
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。			
参考書	『ソノリテについて』タファネルゴーベール 『32のエチュード』ローズ他			
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			
自学自習	予習：スケール・エチュードを自分なりに解釈し、完成させてくること。（2時間） 復習：授業で出た問題点をできるだけ解決させること。（2時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	基礎練習①	支えと音の方向性について
2	基礎練習②	ソルフエージュの重要性
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置
4	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて②	低音域のポジション
6	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて③	高音域のポジション
7	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング
9	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係
10	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係
11	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑧	fの出し方
12	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑨	Pの出し方
13	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑫	前期のまとめ
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏及び評価

平成29年度

科目名	管楽Ⅰ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
担当教員	竹谷 陽二郎			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード・古典～現代の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード・古典～現代の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。			
受講資格	音楽科1年生	成績評価 方法	平常点10％ 試験90％	
教科書	音及び基本奏法に関する教本を併用して使用する。			
参考書	特になし			
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。			
オフィスタイム	月曜日 音楽科No.1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	基礎練習	支えと音の方向性について
2	基礎練習	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習	演奏時の舌の位置
4	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	低音域のポジション
6	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	高音域のポジション
7	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” のど ” のチューニング
9	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” 頭声 ” と楽器の音の関係
10	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” 胸声 ” と楽器の音の関係
11	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	fの出し方
12	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	pの出し方
13	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	前期のまとめ
16	基礎練習 後期試験に向け	” 弦楽器 ” に学ぶ意味
17	基礎練習 後期試験に向け	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習 後期試験に向け	弓の速度と息の速度
19	基礎練習 後期試験に向け	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習 後期試験に向け	タンギングと弓使い
21	基礎練習 後期試験に向け	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習 後期試験に向け	フランス風toneについて
23	基礎練習 後期試験に向け	ドイツ風toneについて
24	基礎練習 後期試験に向け	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習 後期試験に向け	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習 後期試験に向け	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習 後期試験に向け	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習 後期試験に向け	暗譜の確認
29	基礎練習 後期試験に向け	暗譜の確認
30	基礎練習 後期試験に向け	演奏及び評価

平成29年度

科目名	管楽Ⅱ（主科）		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	南川 肇, 柳沼 和幸, 太田 涼			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①管楽器演奏テクニックの問題点がある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。			
受講資格	短大音楽科2年生		成績評価 方法	実技試験 9 0 % 平常点 1 0 %
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。			
参考書	『ソノリテについて』ケーラー 『30のカプリス』カヴァリーニ他			
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。			
オフィスタイム	No. 1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			
自学自習	予習：スケール・エチュードを自分なりに解釈し完成させてくること。（2時間） 復習：レッスンで出てきた課題をできるだけ解決すること。（2時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	基礎練習①	支えと音の方向性について
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置
4	基礎練習、前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習、前期試験に向けて②	低音域のポジション
6	基礎練習、前期試験に向けて③	高音域のポジション
7	基礎練習、前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習、前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング
9	基礎練習、前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係
10	基礎練習、前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係
11	基礎練習、前期試験に向けて⑧	fの出し方
12	基礎練習、前期試験に向けて⑨	Pの出し方
13	基礎練習、前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習、前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習、前期試験に向けて⑫	前期のまとめ
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価

平成29年度

科目名	伴奏法		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	深谷 登喜子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 伴奏の役割を学び、アンサンブルの重要性の基本を学ぶ [授業全体の内容の概要] 歌曲、合唱曲などの伴奏を中心として呼吸、バランス等を学修する。教職必修科目でもあるので、中学校教材の中から、また音楽療法の実習もふまえて選曲をしていく。簡単なコードネームによる伴奏付けも学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 伴奏の役割の大切さを理解する。コードネームによる伴奏を実践できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①授業毎の課題を消化できるか。 ②歌詞の意味を理解できるか。 ③自分で考えて演奏をしているか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験80点、平常点20点	
教科書	特になし			
参考書	中学校教科書（音楽）、その他。			
学生への要望	実技を伴う授業なので、課題の練習をすること。音楽のセンスを養ってほしい。			
オフィスタイム	月～金曜日12：00～12：50 No.1 音楽科研究室			
自学自習	事前学習：当日の課題を練習しておくこと。（1時間） 事後学習：授業の内容の確認のための練習をする。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	導入	年間の授業計画を説明し、伴奏の役割の大切さを認識させる。次回の授業の課題を出す。
2	滝廉太郎作曲「花」の演習 1	前回の授業で出した課題「花」を弾かせる。曲全体の注意点を説明し、学生それぞれに適切なアドバイスを与える。詩の解釈をする。
3	滝廉太郎作曲「花」の演習 2	前回に引き続き「花」を演習する。ある程度弾ける様になった学生は終了させる。8割以上の学生が弾けるようになったことを確認し、次の課題を与える。
4	滝廉太郎作曲「花」3、中田章作曲「早春賦」の演習 1	「花」が合格していない学生は引き続き学習させる。他の学生には中田章作曲「早春賦」を演習させる。
5	中田章作曲「早春賦」の演習 2	「花」を全員終了したことを確認し、「早春賦」の解釈と注意点を説明する。その後演習させる。
6	中田章作曲「早春賦」の演習 3	先週に引き続き注意を与えながら演習をさせる。
7	中田章作曲「早春賦」の演習 4	「早春賦」を先週に引き続き演習させる。学生それぞれに、アドバイスを与えながら弾かせる。終了した学生には次の課題、中田喜直作曲「夏の思い出」を与える。
8	中田章作曲「早春賦」5、中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 1	「早春賦」を全員終了したことを確認し、「夏の思い出」の詩の解釈、曲の解釈、注意点を与える。
9	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 2	「夏の思い出」を演習させる。それぞれに適切な注意、アドバイスをする。次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」を与える。
10	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 3	日本歌曲についての解説と演習。
11	中田喜直作曲「夏の思い出 4」、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 1	「夏の思い出」を全員が終了したことを確認し、次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習をする。曲の解説、伴奏をする上での注意点を説明する。
12	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 2	「浜辺の歌」の演習をさせる。学生各自に適切なアドバイスをしながら、授業を進める。
13	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 3	前回に引き続き「浜辺の歌」の演習をする。2週間後に行う小テストについての説明と、課題を与える。課題はこの時点での学生のレベルを考慮し、2～3曲を提示する。
14	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 4	前回に引き続き演習を進める。
15	成田為三作曲「浜辺の歌」	夏期休業中の課題「郡山女子大学校歌」を出す。
16	校歌（深尾須磨子作詞、一宮道子作曲）の演習 1	郡山女子大学の「校歌」の歌詞の解釈、演奏の注意点を考えさせて、演習をする。
17	「校歌」の演習 2	前回に引き続き校歌の演習を継続する。
18	「校歌」の演習 3、山田耕作作曲「赤とんぼ」の演習 1	校歌が終了した学生は「赤とんぼ」の演習に入る。歌詞、曲の解釈を考えさせて、演奏の注意点を説明する。
19	「校歌」4、「赤とんぼ」の演習 2。簡単な旋律に伴奏をつける学習 1	前回に引き続き「校歌」、「赤とんぼ」を演習させる。簡単な旋律に伴奏をつけることを学修する。
20	「校歌」5、「赤とんぼ」3の演習、伴奏付け 2	「校歌」をほぼ全員終了したことを確認し、「赤とんぼ」を演習させる。授業の後半で、簡単な伴奏付けを行う。
21	「赤とんぼ」の演習 4、中田喜直作曲「雪の降る街を」の演習 1、伴奏付け 3	「赤とんぼ」を終了した学生には、次の課題として中田喜直作曲「雪の降る街を」を与える。簡単な伴奏付けを行う。
22	「雪の降る街を」の演習 2、伴奏付け 4	「雪の降る街を」の歌詞の解釈、伴奏をする上での注意点等を考えさせ、説明を加える。その後、演習に入る。伴奏付けは少しずつ移調も試みる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	「雪の降る街を」の演習 3、伴奏付け 5	前回に引き続き「雪の降る街を」を学生各自にアドヴァイスをしながら、授業を進める。伴奏付けは移調ができるように、考えさせる。
24	「雪の降る街を」の演習 4、伴奏付け 6	「雪の降る街を」をほぼ全員終了したことを確認する。伴奏付けはなるべく多くの課題を实践させる。
25	簡単な童謡の演習 1、伴奏付け 7	体や指を使って、歌いながらできる童謡や歌を学修する。伴奏付けは引き続き多くの課題をこなすようにする。
26	簡単な童謡の演習 2、伴奏付け 8	前回に引き続き、童謡の伴奏を弾くことを継続させる。伴奏付けも多様な形式の課題をとにかく多く演習させる。
27	童謡 3、伴奏付け 9	聞いたことはあるが弾いた事はない曲、新しい曲等を選んで演習させる。伴奏付けは引き続き行う。
28	童謡の演習 4、伴奏付け 10	前回に同じく、継続して演習をさせる。卒業試験の演奏（伴奏）についての質問、あるいは実際に演奏をさせて指導をする時間を取る。
29	授業の理解の確認	1年間の授業の感想、反省、意見などを聞く。まとめの課題を出す。
30	授業のまとめ	1年間の確認とまとめ

科目名	ソルフェージュⅠ		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修
担当教員	横溝 聡子, 南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 〔授業全体の内容の概略〕 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。 【履修カルテ評価項目】 ①リズム、単旋律聴音に於いて出題された課題の80%を聴き取る事ができたか。 ②和声、複旋律の聴音を聴き分ける事ができたか。 ③正しい音程やリズムで歌えるようになったか。			
受講資格	音楽科1年		成績評価 方法	学期末テスト80点、平常点20点
教科書	印刷物の配布			
参考書	特になし			
学生への要望	授業の時間のみでなく、日頃より楽譜を正確に読み、音をよく聴く習慣を身に付けて欲しい。			
オフィスタイム	火曜日～木曜日 12:00～12:50 No. 1 音楽科研究室			
自学自習	予習：楽譜をよく読み、音程やリズムを正しく歌えるようにすること。また音をよく聴く習慣をつけること（1時間） 復習：授業を踏まえて、苦手な部分の克服に努めること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為にテスト
2	ソルフェージュの基礎1	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
3	ソルフェージュの基礎2	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
4	ソルフェージュの基礎3	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
5	聴音ステップ1①	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
6	聴音ステップ1②	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
7	聴音ステップ1③	リズム、8小節のやや複雑な単旋律聴音と2声聴音を行なう。
8	聴音と新曲視唱1	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
9	聴音と新曲視唱2	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
10	新曲視唱	新曲視唱の能力を高める事は聴音の力を伸ばす事につながるので、新曲視唱練習を行った後、確認テストを行う。 不合格となった者は再試を行う。
11	聴音ステップ2①	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
12	聴音ステップ2②	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
13	聴音ステップ2③	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
14	聴音ステップ2④	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
15	聴音ステップ2⑤	聴音テスト（リズム、単旋律、2声、4声体）と解説。
16	聴音ステップ3①	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
17	聴音ステップ3②	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
18	聴音ステップ3③	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
19	聴音ステップ3④	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
20	演習1	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
21	演習2	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
22	演習3	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
23	演習4	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
24	演習5	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
25	演習6	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
26	演習7	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
27	演習8	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
28	演習9	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
29	演習10	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
30	演習11	聴音テスト（リズムの暗記聴音、単旋律、2声、4声体）と解説。

科目名	ソルフェージュⅡ		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	横溝 聡子, 南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 〔授業全体の内容の概略〕 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。 【履修カルテ評価項目】 ①リズム、単旋律聴音に於いて出題された課題の80%を聴き取る事ができましたか。 ②和声、複旋律の聴音を聴き分ける事ができましたか。 ③正しい音程やリズムで歌えるようになりましたか。			
受講資格	音楽科2年		成績評価 方法	学期末テスト80点、平常点20点
教科書	印刷物の配布			
参考書	特になし			
学生への要望	授業の時間のみでなく、日頃より楽譜を正確に読み、音をよく聴く習慣を身に付けて欲しい。			
オフィスタイム	火曜日～木曜日 12:00～12:50 No. 1 音楽科研究室			
自学自習	予習：楽譜をよく読み、音程やリズムを正しく歌えるようにすること。また音をよく聴く習慣をつけること（1時間） 復習：授業を踏まえて、苦手な部分の克服に努めること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為のテスト
2	ソルフェージュの基礎1	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
3	ソルフェージュの基礎2	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
4	ソルフェージュの基礎3	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
5	聴音ステップ1①	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
6	聴音ステップ1②	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
7	聴音ステップ1③	リズム、8小節のやや複雑な単旋律聴音と2声聴音を行なう。
8	聴音と新曲視唱1	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
9	聴音と新曲視唱2	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
10	新曲視唱	新曲視唱の能力を高める事は聴音の力を伸ばす事につながるので、新曲視唱練習を行った後、確認テストを行う。 不合格となった者は再試を行う。
11	聴音ステップ2①	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
12	聴音ステップ2②	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
13	聴音ステップ2③	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
14	聴音ステップ2④	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
15	聴音ステップ2⑤	聴音テスト（リズム、単旋律、2声、4声体）と解説。
16	聴音ステップ3①	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
17	聴音ステップ3②	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
18	聴音ステップ3③	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
19	聴音ステップ3④	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
20	演習1	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
21	演習2	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
22	演習3	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
23	演習4	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
24	演習5	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
25	演習6	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
26	演習7	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
27	演習8	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
28	演習9	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
29	演習10	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
30	演習11	聴音テスト（リズムの暗記聴音、単旋律、2声、4声体）と解説。

科目名	合唱Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修
担当教員	深谷 登喜子,磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 合唱の一員であると言う責任感の基、音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌うことにより品位ある合唱の響きを追求する授業です。 「授業全体の内容の概要」 この授業は一、二年合同で行います。定期演奏会のための練習その他を行います。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 合唱の楽しみを知り、将来に役立つ音楽性を身につけます。 【履修カルテ評価項目】 ①自分のパートを正しく歌えているか。 ②曲の意味を理解して歌っているか。 ③他のパートと協調し美しいアンサンブルが出来ているか。			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	実技試験80%、平常点20%	
教科書	合唱作品			
参考書	なし			
学生への要望	合唱の一員であるという責任と自覚を持って臨んで下さい。			
オフィスタイム	火、水曜日12:00~12:50 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：課題となっている曲の楽譜をよく読んでおく事。（1時間） 事後学習：練習で明確になった課題について復習しておく事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	合唱音楽への導入	合唱音楽への導入として簡単な楽曲を取り上げ、合唱のハーモニーの豊かさを実感する。一年生はパート決めを行う。
2	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他 ①	オープンキャンパスのための練習。
3	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他②	声質の統一、音程、音質など細かい部分に注意しながら曲の持つ繊細な美しさを表現。パートごとの譜読みを行う。
4	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他③	曲の持つ響きの豊かさ情感を味わいながら合わせの練習。
5	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他④ 並行して定期演奏会の演奏曲目についての準備。	譜読み、合わせ。
6	定期演奏会の演奏曲目についての準備	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。
7	定期演奏会の演奏曲目の練習①	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。 合わせの練習、次の曲も練習しておく。
8	定期演奏会の演奏曲目の練習②	まとめ。音程、テンポ、表現などの確認。
9	定期演奏会の演奏曲目の練習③	曲の抒情感、リズム感を感じながら歌う。
10	定期演奏会の演奏曲目の練習④	合わせ。リズムに乗り歌う。前の曲も合わせて練習する。
11	定期演奏会の演奏曲目の練習⑤	譜読み、合わせ。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。
12	定期演奏会の演奏曲目の練習⑥	譜読み、合わせ。ゆっくりとした曲だが情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。前曲の復習。
13	定期演奏会の演奏曲目の練習⑦	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。
14	定期演奏会の演奏曲目の練習⑧	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。これまでの復習。
15	全曲。定期演奏会の練習⑨	全曲の仕上げをする。 定演の練習。
16	定期演奏会の練習⑩	定演のための練習を行う。
17	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
18	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
19	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
20	ポリフォニー①	パレストリーナなどの中世の合唱曲や合唱の原点である西洋の宗教曲に触れることにより合唱の響きを味わう。
21	ポリフォニー②	合唱の原点である中世の宗教曲を歌うことにより、合唱の素晴らしさを知る。
22	ポリフォニー③	アベ・マリア、アヴェ・ヴェルム・コルプス、など西洋の合唱音楽に触れる。
23	世界の合唱音楽①	モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなど古典の名曲に触れることによりより深く合唱の響きを知る。
24	世界の合唱音楽②	前週の続き。モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなどの合唱曲。
25	世界の合唱音楽③	前週の続き。シューベルトなどその他の名曲に触れる。
26	日本の合唱音楽①	日本には優れた合唱曲が数多くある。それらを歌うことにより日本語の美しさを味わう。 三善晃、中田喜直、湯山昭その他。
27	日本の合唱音楽②	前週の続き。音楽の内容を更に深める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	日本の合唱音楽③	前週に引き続き音楽を深める。その他の名曲も紹介する。
29	合唱の喜びのまとめ	合唱音楽のさまざまな時代、様式などを踏まえながら合唱の喜びを深める。
30	合唱の喜びのまとめと試験	アンサンブルによる試験。3，4名ずつのグループを作り、室内合唱としてのアンサンブルを経験する。

科目名	合唱Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	深谷 登喜子, 磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 合唱の一員であると言う責任感の基、音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌うことにより品位ある合唱の響きを追求する授業です。 「授業全体の内容の概要」 授業は一、二年合同で行います。一年次での基礎を踏まえ合唱作品の名曲に触れます。			
達成目標	「授業修了時の達成度」 合唱音楽を通して将来に役立つ音楽性を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①音程リズムを正確に歌う事が出来るか。 ②他と協調し、アンサンブルがスムーズにできるか。 ③楽曲を正しく理解しているか。			
受講資格	音楽科2年		成績評価 方法	実技試験80％、平常点20％
教科書	合唱作品			
参考書	なし			
学生への要望	合唱の一員であるという責任と自覚を持って臨んで下さい。			
オフィスタイム	火、水曜日10:30～14:20 No.1 音楽科研究室			
自学自習	事前学習：課題となっている曲の楽譜をよく読んでおく事（1時間） 事後学習：練習で明確になった課題について復習しておく事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	合唱音楽への導入	合唱音楽への導入として簡単な楽曲を取り上げ、合唱のハーモニーの豊かさを実感する。一年生はパートを決め
2	オープンキャンパスの演奏曲①	オープンキャンパスでは授業の一環として合唱を演奏する。曲目は浜辺の歌など4曲。（一年のシラバス参照）
3	オープンキャンパスの演奏曲②	声質の統一、音程、音質など細かい部分に注意しながら曲の持つ繊細な美しさを表現。パートごとの譜読みを行う。
4	オープンキャンパスの演奏曲③	曲の持つ響きの豊かさ情感を味わいながら合わせの練習。
5	オープンキャンパスの演奏曲④ 並行して定期演奏会の演奏曲	譜読み、合わせ。
6	定期演奏会の演奏曲①	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。
7	定期演奏会の演奏曲②	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。 合わせの練習、次の曲も練習をする。
8	定期演奏会の演奏曲③	まとめ。音程、テンポ、表現などの確認。
9	定期演奏会の演奏曲④	譜読み、リズム感を感じながら歌う。
10	定期演奏会の演奏曲⑤	合わせ。リズムに乗り歌う。前曲も合わせて練習する。
11	定期演奏会の演奏曲⑥	譜読み、合わせ。情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。
12	定期演奏会の演奏曲⑦	譜読み、合わせ。情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。前曲の復習。
13	定期演奏会の演奏曲⑧	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。
14	定期演奏会の演奏曲⑨	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。これまでの復習。
15	定期演奏会の演奏曲全曲⑩	全曲の仕上げをする。定演の練習。
16	定期演奏会の練習⑪	定演のための練習を行う。
17	定期演奏会の練習⑫	定演のための練習を行う。
18	定期演奏会の練習⑬	定演のための練習を行う。
19	定期演奏会の練習⑭	定演のための練習を行う。
20	ポリフォニー①	パレストリーナなどの中世の合唱曲や合唱の原点である西洋の宗教曲に触れることにより合唱の響きを味わう。
21	ポリフォニー②	合唱の原点である中世の宗教曲を歌うことにより、合唱の素晴らしさを知る。
22	ポリフォニー③	アベ・マリア、アヴェ・ヴェルム・コルプス、など西洋の合唱音楽に触れる。
23	世界の合唱音楽①	モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなど古典の名曲に触れることによりより深く合唱の響きを知る。
24	世界の合唱音楽②	前週の続き。モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなどの合唱曲。
25	世界の合唱音楽③	前週の続き。シューベルトなどその他の名曲に触れる。
26	日本の合唱音楽①	日本には優れた合唱曲が数多くある。それらを歌うことにより日本語の美しさを味わう。三善晃、中田喜直、湯山昭その他。
27	日本の合唱音楽②	前週の続き。音楽の内容を更に深める。
28	日本の合唱音楽③	前週に引き続き音楽を深める。その他の名曲も紹介する。
29	合唱の喜びのまとめ	合唱音楽のさまざまな時代、様式などを踏まえながら合唱の喜びを深める。
30	合唱の喜びとのまとめと試験	アンサンブルによる試験。3、4名ずつのグループを作り、室内合唱としてのアンサンブルを経験する。

科目名	合奏Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
担当教員	南川 肇, 増子 仁保, 小枝 泉		
開講期	通年		
授業概要	「授業の目的・ねらい」 高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行う。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演する。 「授業全体の内容の概要」 Ⅰ、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学ぶ。		
達成目標	「授業修了時の到達度」 合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入って行けるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基本的楽器の奏法をマスターしているか ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか		
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	実技試験80%、常点20%
教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。		
参考書	なし		
学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組むこと。		
オフィスタイム	火～金曜日 12:00～12:50 音楽科第1研究室		
自学自習	事前学習：課題曲の自分のパートをよく練習してくること。（1時間） 事後学習：授業にて出てきた課題を解決しておくこと。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
2	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
3	創立記念式典の練習②	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
4	創立記念式典の練習②	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
5	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
6	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
7	定期演奏会の演奏曲②	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
8	定期演奏会の演奏曲②	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
9	定期演奏会の演奏曲③	パート、セクションの続き。特に序奏部分は音楽的に難しく、弦のアンサンブル、管のソロ部分に難所が多いので、集中的に練習したい。
10	定期演奏会の演奏曲③	パート、セクションの続き。特に序奏部分は音楽的に難しく、弦のアンサンブル、管のソロ部分に難所が多いので、集中的に練習したい。
11	定期演奏会の演奏曲④	序奏部分のパート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
12	定期演奏会の演奏曲④	序奏部分のパート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
13	定期演奏会の演奏曲⑤	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
14	定期演奏会の演奏曲⑤	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
15	定期演奏会の演奏曲⑥	終結部の練習。この部分は非常に速く、技術的に困難な場所なので、ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。
16	定期演奏会の演奏曲⑥	終結部の練習。この部分は非常に速く、技術的に困難な場所なので、ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。
17	定期演奏会の演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
18	定期演奏会の演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
19	定期演奏会の演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
20	定期演奏会の演奏曲⑧	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。
21	定期演奏会の演奏曲⑧	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	定期演奏会の演奏曲⑨	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
23	定期演奏会の演奏曲⑨	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
24	定期演奏会の演奏曲⑩	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
25	定期演奏会の演奏曲⑩	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
26	定期演奏会の演奏曲⑪	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
27	定期演奏会の演奏曲⑪	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
28	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
29	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
30	シューベルト「ロザムンデ」他②	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
31	シューベルト「ロザムンデ」他②	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
32	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
33	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
34	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
35	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
36	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
37	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
38	コラール「すべての宝にまざる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコラール「すべての宝にまざる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
39	コラール「すべての宝にまざる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコラール「すべての宝にまざる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
40	コラール「すべての宝にまざる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
41	コラール「すべての宝にまざる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
42	コラール「すべての宝にまざる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
43	コラール「すべての宝にまざる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
44	コラール「すべての宝にまざる宝」その他④	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
45	コラール「すべての宝にまざる宝」その他④	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
46	コラール「すべての宝にまざる宝」その他⑤	前週の続き。コラール以外の奏楽曲について練習。
47	コラール「すべての宝にまざる宝」その他⑤	前週の続き。コラール以外の奏楽曲について練習。
48	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
49	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
50	オーケストラの響き②	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
51	オーケストラの響き②	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
52	オーケストラの響き③	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
53	オーケストラの響き③	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
54	オーケストラの響き④	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
55	オーケストラの響き④	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
56	コラールその他①	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
57	コラールその他①	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
58	コラールその他②	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
59	コラールその他②	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
60	コラールその他③	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。

科目名	合奏Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択	
担当教員	南川 肇,小枝 泉			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行う。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演する。 「授業全体の内容の概要」 Ⅰ、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学ぶ。			
達成目標	「授業修了時の到達度」 合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入って行けるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基本的楽器の奏法をマスターしているか ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法		実技試験80％、常点20％
教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。			
参考書	なし			
学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組むこと。			
オフィスタイム	火～金曜日 12：00～12：50 音楽科第1研究室			
自学自習	事前学習：課題曲の自分のパートをよく練習してくること。（1時間） 事後学習：授業にて出てきた課題を解決しておくこと。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
2	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
3	創立記念式典の練習②	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
4	創立記念式典の練習②	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
5	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
6	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
7	定期演奏会の演奏曲②	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
8	定期演奏会の演奏曲②	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
9	定期演奏会の演奏曲③	パート、セクションの続き。特に序奏部分は音楽的に難しく、弦のアンサンブル、管のソロ部分に難所が多いので、集中的に練習したい。
10	定期演奏会の演奏曲③	パート、セクションの続き。特に序奏部分は音楽的に難しく、弦のアンサンブル、管のソロ部分に難所が多いので、集中的に練習したい。
11	定期演奏会の演奏曲④	序奏部分のパート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
12	定期演奏会の演奏曲④	序奏部分のパート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
13	定期演奏会の演奏曲⑤	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
14	定期演奏会の演奏曲⑤	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
15	定期演奏会の演奏曲⑥	終結部の練習。この部分は非常に速く、技術的に困難な場所なので、ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。
16	定期演奏会の演奏曲⑥	終結部の練習。この部分は非常に速く、技術的に困難な場所なので、ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。
17	定期演奏会の演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
18	定期演奏会の演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
19	定期演奏会の演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
20	定期演奏会の演奏曲⑧	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。
21	定期演奏会の演奏曲⑧	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	定期演奏会の演奏曲⑨	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
23	定期演奏会の演奏曲⑨	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
24	定期演奏会の演奏曲⑩	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
25	定期演奏会の演奏曲⑩	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
26	定期演奏会の演奏曲⑪	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
27	定期演奏会の演奏曲⑪	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
28	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
29	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
30	シューベルト「ロザムンデ」他②	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
31	シューベルト「ロザムンデ」他②	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
32	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
33	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
34	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
35	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
36	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
37	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
38	コラール「すべての宝にまざる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコラール「すべての宝にまざる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
39	コラール「すべての宝にまざる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコラール「すべての宝にまざる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
40	コラール「すべての宝にまざる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
41	コラール「すべての宝にまざる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
42	コラール「すべての宝にまざる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
43	コラール「すべての宝にまざる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
44	コラール「すべての宝にまざる宝」その他④	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
45	コラール「すべての宝にまざる宝」その他④	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
46	コラール「すべての宝にまざる宝」その他⑤	前週の続き。コラール以外の奏楽曲について練習。
47	コラール「すべての宝にまざる宝」その他⑤	前週の続き。コラール以外の奏楽曲について練習。
48	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
49	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
50	オーケストラの響き②	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
51	オーケストラの響き②	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
52	オーケストラの響き③	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
53	オーケストラの響き③	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
54	オーケストラの響き④	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
55	オーケストラの響き④	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
56	コラールその他①	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
57	コラールその他①	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
58	コラールその他②	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
59	コラールその他②	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
60	コラールその他③	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。

平成29年度

科目名	アンサンブル		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 アンサンブルの演奏方法、コミュニケーションの取り方、練習方法などのテクニックを身につける。 〔授業全体の内容の概要〕 様々な編成の室内楽を、個々のレベルに合わせ演奏する。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 アンサンブルのテクニックを身につけ、様々な編成の室内楽の演奏法ができるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①室内楽の演奏方法を理解できたか。 ②他の声部をよく理解し、それに合わせた演奏ができたか。 ③他の奏者に、方向性を示すことができたか。			
受講資格	音楽科2年生		成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%
教科書	個々のレベルにあった、アンサンブル曲。			
参考書	無し			
学生への要望	室内楽の奏法を身につけ、音楽一般の演奏力を伸ばしてもらいたい。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			
自学自習	予習：課題になる曲に対し、自分のパートをしっかり練習してくること。また皆で合わせておくこと。（1時間） 復習：授業の内容をふまえ、さらに完成度を増すアンサンブルをすること。（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	アンサンブルに対する心構えや指導方針の説明
2	基本練習①	ブレス、アインザッツの重要性と方法。
3	基本練習②	ブレス、アインザッツの重要性と方法。
4	基本練習③	テンポ設定と音楽表現。
5	基本練習④	テンポ設定と音楽表現。
6	実践①	個々のレベルと編成にあった選曲。
7	実践②	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。
8	実践③	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
9	実践④	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
10	実践⑤	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
11	実践⑥	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
12	実践⑦	曲の分析とその表現方法。
13	実践⑧	曲の分析とその表現方法。
14	実践⑨	発表に向けての準備。
15	発表	授業の成果発表。及び評価。
16	実践⑩	個々のレベルと編成にあった選曲。
17	実践⑪	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。
18	実践⑫	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
19	実践⑬	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
20	実践⑭	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
21	実践⑮	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
22	実践⑯	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
23	実践⑰	個々のレベルと編成にあった選曲。
24	実践⑱	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
25	実践⑲	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
26	実践⑳	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
27	実践㉑	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
28	実践㉒	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
29	実践㉓	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
30	発表	研究成果の発表。及び評価。

科目名	音楽鑑賞	対象 単位数 必須	短期大学部 音楽科 1年 4単位 選択	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 CD、LD、DVD、ビデオなどのソフトを用い、さまざまな音楽に触れることにより、古典から現代までのクラシック音楽の本質について学ぶ。 「授業全体の内容の概要」 音楽鑑賞は、古今の名曲を鑑賞するにとどまらず、作曲家の個性、時代背景、時代様式などを知ることにより、音楽がいかに社会と密接にかかわってきたかを知る。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 音楽史を正しく理解し、音楽の意味について深く理解する。 【履修カルテの評価項目】 ①時代性、様式について理解できているかどうか。 ②音楽史の流れを正しく理解できているかどうか。 ③美しいものを感じ取る感性が育っているかどうか。			
受講資格	音楽科1年、生涯学習生	成績評価 方法	レポート80%、平常点20%	
教科書	『新音楽史』 H.M. ミラー著 東海大学出版			
参考書	無し			
学生への要望	意欲を持って豊富な知識を身につけ、自由な感性を育てて欲しい。			
オフィスタイム	火～金曜日 12：00～12：50 音楽科第1研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を確認し、楽曲や、作曲家について下調べをしておくこと。（1時間） 事後学習：鑑賞した作品について感想をまとめておくこと。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	音楽鑑賞は単に名曲を聴く、という事だけではない。音楽を鑑賞する真の意味について考える。 また、聴くポイントやそこから何を学び取るか、について考える。
2	ヤング・ピープلز・コンサート1	ヤング・ピープلز・コンサートは20世紀最大の作曲家・指揮者であったレナード・バーンスタインが自らライフワークと位置付け、25回、15年に亘ってテレビ放映した青少年のための音楽教室である。第一回は「音楽って何？」 我々が如何に間違った聴き方をしているか分かりやすく説いている。
3	アメリカ音楽	アメリカのクラシック音楽がアメリカの独自性を発揮するまでの歴史について
4	オーケストレーション	音楽をオーケストラで表現する際、楽器の組み合わせの可能性や効果、楽器の処理の仕方について
5	交響楽	単純な旋律を元に、あらゆる技法を駆使して組み合わせ、展開し、和音を変え、リズム、テンポを変えるシンフォニックな響きについて
6	古典派音楽	クラシック音楽には大きく分けてバロック、古典派、ロマン派、近代、現代など時代と共に発展した様式や国民学校など地域独自の発展を遂げた様々なスタイルがある。バッハ、ヘンデルなどのバロック時代からハイドンモーツァルトを経てベートーヴェンに至る古典派の音楽がどのようなものであったか説明する。
7	コンサート・ホールの中の民族音楽	音楽の根底にある民謡やフォークダンスについて
8	印象主義	フランスのドビュッシーやラヴェルの音楽は特殊な音階や和音を使って神秘的な不思議な響きを作り出す。 暗示は現実主義に勝りうるというフランスに生まれた考え方に基づく印象主義音楽について
9	ソナタ形式	多くの音楽が作られてる重要な形式であるソナタ形式について
10	旋法	私たちが愛する音楽の大部分は「旋法」と呼ばれる昔からある音階に基づいている。 現在の長、短音階の元となったもので、教会旋法、ギリシャ旋法などがあるが、現在も旋法を用いた例は数多い。
11	ベルリオーズの「幻想」	音楽はあくまで音自体が目的の建造物であって物語をなぞるものではない。しかしロマン派に至って標題音楽、つまり物語りや心象風景を音を手段として用い、表現する手法が発達した。ベルリオーズの「幻想」交響曲はその先駆と言われている。
12	協奏曲	さまざまな楽器の協奏曲について
13	クイズ・コンサート	音楽の常識や鑑賞のポイントをクイズを通して解説する。 作曲家の名前、国籍、時代、様式など鑑賞に必要な知識を持つことは大切なことである。
14	パレエの中の鳥たち	チャイコフスキー「白鳥の湖」ストラヴィンスキー「火の鳥」どちらも魅力にあふれた作品だがパレエが無く音楽だけでも十分楽しむことが出来る。
15	フィデリオ命の讃歌ー	フィデリオはベートーヴェンの唯一のオペラ。この音楽のあふれる魅力について考える。
16	オペラの楽しみ①	2週にわたってモーツァルト作曲、歌劇「ドン・ジョヴァニ」を鑑賞。総合芸術としてのオペラは音楽のあらゆる要素が入っている。Ⅳ期はオペラを中心に鑑賞し、音楽の素晴らしさを知る。
17	オペラの楽しみ②	「ドン・ジョヴァニ」の2回目。解説。
18	オペラの楽しみ③	ブッチーニ作曲、歌劇「ラ・ボエーム」を2週にわたって鑑賞。イタリアオペラの代表的作曲家の他の作品についても解説する。
19	オペラの楽しみ④	「ラ・ボエーム」の2回目。解説。
20	オペラの楽しみ⑤	ヴェルディ作曲、歌劇「椿姫」を3週にわたって鑑賞。ヴェルディはブッチーニと並ぶイタリアオペラの大家。ヴェルディの他の作品についても解説。
21	オペラの楽しみ⑥	「椿姫」の2回目。
22	オペラの楽しみ⑦	「椿姫」の3回目。
23	オペラの楽しみ⑧	オペラの最高傑作の一つピゼー作曲、歌劇「カルメン」を2回にわたって鑑賞。
24	オペラの楽しみ⑨	「カルメン」の2回目。解説。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	オペラの楽しみ⑩	ベートーヴェン作曲、歌劇「フィデリオ」を3週にわたって鑑賞。フィデリオはベートーヴェン唯一のオペラ。モーツァルト以来のドイツオペラの伝統について解説。
26	オペラの楽しみ⑪	「フィデリオ」の2回目。
27	オペラの楽しみ⑫	「フィデリオ」の3回目。
28	オペラの楽しみ⑬	ロッシーニ作曲、歌劇「セビリアの理髪師」を2回にわたって鑑賞。
29	オペラの楽しみ⑭	「セビリアの理髪師」の2回目。
30	鑑賞のまとめ	音楽鑑賞で学んだこと、音楽について知り得た事など討論形式をもって話し合う。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	深谷 登喜子, 磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。			
受講資格	短大音楽科 2年生		成績評価 方法	小論文 4 0 %、演奏 6 0 %にて評価
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 1 2 : 0 0 ~ 1 2 : 5 0 No. 1 音楽科研究室			
自学自習	事前学習：当日の課題を練習、確認をしておくこと。（2時間） 事後学習：授業での反省に基づいて練習をすること。（2時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演奏研究1	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究2	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究16	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	演奏研究17	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究18	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究19	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究20	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究21	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究22	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

平成29年度

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。			
受講資格	短大音楽科2年生		成績評価 方法	小論文40％、演奏60％にて評価
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日12：00～12：50 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演奏研究1	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究2	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究16	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	演奏研究17	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究18	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究19	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究20	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究21	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究22	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	横溝 聡子, 柳沼 和幸, 太田 涼平			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等其他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	小論文40％、演奏60％にて評価	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日12：00～12：50 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演奏研究 1	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究 2	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究 3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究 4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究 5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究 6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究 7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究 8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究 9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究 10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究 11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究 12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究 13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究 14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究 15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究 16	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	演奏研究 17	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究 18	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究 19	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究 20	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究 21	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究 22	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究 1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究 2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究 3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究 4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究 5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究 6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究 7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究 8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	割谷 由美子				
開講期	通年				
授業概要	各専攻コースにおいて、2年間の学習成果を実らせる意味から、学生各自の専門分野の研究を深め、演奏、能力の向上を図り総合的な音楽学習の基礎とする。 履修カルテの評価項目 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。				
達成目標	各専攻コースにおいて、2年間の学習成果を実らせる意味から、学生各自の専門分野の研究を深め、演奏、能力の向上を図り総合的な音楽学習の基礎とする。 履修カルテの評価項目 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。				
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価 方法	小論文40%、演奏60%にて評価
教科書					
参考書					
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。				
オフィスタイム	月火 レッスン室No.1				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	卒業研究	ピアノ2、声楽2、弦楽2、管楽2の授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	卒業研究	ピアノ2、声楽2、弦楽2、管楽2の授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	卒業研究	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	卒業研究	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	卒業研究	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	卒業研究	候補の曲の譜読みをする。
7	卒業研究	候補の曲の譜読みをする。
8	卒業研究	演奏曲目を決定する。
9	卒業研究	演奏曲の譜読みを始める。
10	卒業研究	演奏曲の譜読みを続ける。
11	卒業研究	演奏曲の譜読みを続ける。
12	卒業研究	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	卒業研究	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	卒業研究	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	卒業研究	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	卒業研究	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	卒業研究	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	卒業研究	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	卒業研究	演奏の表現の方法を研究する。
20	卒業研究	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	卒業研究	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	卒業研究	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	卒業研究	卒業研究小論文の作成に入る。
24	卒業研究	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	卒業研究	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	卒業研究	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	卒業研究	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	卒業研究	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	卒業研究	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	卒業研究	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	津田 由美子				
開講期	通年				
授業概要	各専攻コースにおいて、2年間の学習成果を実らせる意味から、学生各自の専門分野の研究を深め、演奏、能力の向上を図り総合的な音楽学習の基礎とする。 履修カルテの評価項目 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。				
達成目標	各専攻コースにおいて、2年間の学習成果を実らせる意味から、学生各自の専門分野の研究を深め、演奏、能力の向上を図り総合的な音楽学習の基礎とする。 履修カルテの評価項目 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。				
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価 方法	論文、演奏内容にて評価
教科書					
参考書					
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。				
オフィスタイム					

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	卒業研究	ピアノ2、声楽2、弦楽2、管楽2の授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	演奏曲目を決定し、実際に楽譜を読み、楽曲の内容を把握し構成の研究をする。
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ研究を深める。
11	〃	〃
12	〃	楽曲の演奏を可能にし、楽曲の表現方法を研究する。
13	〃	〃
14	〃	〃
15	〃	〃
16	〃	演奏する楽曲を楽理的に分析して楽曲構成を把握する。
17	〃	〃
18	〃	〃
19	〃	〃
20	〃	〃
21	〃	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	〃	〃
23	〃	卒業研究論文の作成に入る。
24	〃	担当教員と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	〃	〃
26	〃	〃
27	〃	〃
28	〃	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	〃	〃
30	〃	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

平成29年度

科目名	音楽療法概論	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	村井 満恵		
開講期	前期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①音楽療法士に必要な知識の習得 ②チームワークなど社会人としての基礎力の養成。 ③課題を発見し、自ら考え、解決する力を身につける。 〔授業全体の内容の概要〕 音楽療法の重要事項の内容を把握し、これからの音楽療法士に求められる知識を習得していく。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 音楽療法についての基礎的な知識を説明することができる。 音楽療法の対象者を理解でき、自主的に学ぶ姿勢を身につけることができる。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 ①音楽療法士に必要な知識の習得 ②チームワークなど社会人としての基礎力の養成。 ③課題を発見し、自ら考え、解決する力を身につける。 〔授業全体の内容の概要〕 音楽療法の重要事項の内容を把握し、これからの音楽療法士に求められる知識を習得していく。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 音楽療法についての基礎的な知識を説明することができる。 音楽療法の対象者を理解でき、自主的に学ぶ姿勢を身につけることができる。		
受講資格	音楽科1年生	成績評価 方法	①期末テスト50点 ②課題30点 ③小テスト20点
教科書	音楽療法の基礎		
参考書	特になし		
学生への要望	グループワークに積極的に参加すること		
オフィスタイム	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業の概要を理解する。 予習復習の方法などを認識する。

平成29年度

科目名	音楽療法各論Ⅰ（基礎）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	三瓶 令子			
開講期	前期			
授業概要	○学生自身の感受性と感覚をひらき、障害や病気をもつ子どもや高齢者とセッションをしたり、シェアする者として働きかける「からだ」と、ここちよく届く声をつくる。 ○学内でのまなびを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域施設において高齢者の前でセッションの体験を試みる。			
達成目標	①障害や病気をもつ子どもや高齢者とセッションすることのできるからだ、ここちよく届く声をつくることができたか。 ②現場で実践するために、プログラミングすることができるか。 ③フィールド応用体験ワークとして、地域施設において高齢者の前でセッションの体験をしたことから学んだことは何か。			
受講資格	音楽科1年生	成績評価 方法	レポート30点、実技70点	
教科書	相澤 保正編著 『歌でコミュニケーション 福祉音楽80曲』改訂版 KYODO-MUSIC出版 2007年			
参考書	丸山 忠璋著 『療法的音楽活動のすすめ』 春秋社 2002年			
学生への要望	○適宜資料(プリント)を配布するので、各自ファイルを準備する。 ○動き易い服装で参加する。 ○フィールドには、9月 土曜日の午前中(日時未定)2時間を予定している。 ○授業を通して体験的に学ぶので、授業を休まない。			
オフィスタイム	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室			
自学自習	自学自習 事前：テキストの「解説・コラム」の内容を必ず読んでくる。 事後：講義内容を整理するとともに、授業で取り上げた教材を必ず復習(歌う・弾く)しておく。			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	○音楽療法に関するイメージ、及び授業への要望等の調査「授業開始にあたって」の記入 ○各種プリントの配布と説明 ・「全国音楽療法士養成協議会」について ・「音楽療法学会」の現状と「音楽療法士認定規則」について ・「ピアノレスナーの音楽療法」等

平成29年度

科目名	音楽療法各論Ⅱ（技法）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	村井 満恵			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①音楽療法士に必要な知識・技能の習得 ②社会人基礎力としてのチームワーク、状況把握力の養成 ③コミュニケーション力を育成する。 〔授業全体の内容の概要〕 ①音楽療法実践のための基礎力を向上させる。 ②多ジャンルの音楽を理解し、実践と結びつけた学習をする。 ③課題を自ら考え、解決する力を身につける。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 音楽療法士としての使命感と責任感を養い、現場のニーズに合わせた行動ができる。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 ①音楽療法士に必要な知識・技能の習得 ②社会人基礎力としてのチームワーク、状況把握力の養成 ③コミュニケーション力を育成する。 〔授業全体の内容の概要〕 ①音楽療法実践のための基礎力を向上させる。 ②多ジャンルの音楽を理解し、実践と結びつけた学習をする。 ③課題を自ら考え、解決する力を身につける。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 音楽療法士としての使命感と責任感を養い、現場のニーズに合わせた行動ができる。			
受講資格	音楽科1年生		成績評価 方法	授業時の課題30点 期末試験70点
教科書	「歌の宝石箱」～手あそび歌付～ 呉竹英一編 ドレミ楽譜出版社			
参考書	その都度紹介する			
学生への要望	積極的に学びましょう			
オフィスタイム	授業終了後			

－授業内容とスケジュール－		
回	項目	授業内容
1	ガイダンス	音楽療法を実践するための音楽的技術について。 現場のニーズについての理解。

平成29年度

科目名	音楽療法総合演習	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	春山 和見			
開講期	前期			
授業概要	身体に障害を有する人々と直接触れ合いながら、音楽療法の実践研修を通じて音楽療法学を習得する。			
達成目標	身体に障害を有する人々と直接触れ合いながら、音楽療法の実践研修を通じて音楽療法学を習得する。			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	出席20点 レポート80点	
教科書	なし。			
参考書	死の瞬間の対話（E・キューブラー・ロス著） 涙の理由（ファム・デイン・ソン 加藤隆子著） スピリチュアル・ケア（ワデマール・キッペス著）			
学生への要望	臨床現場を通しての習得			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	音楽療法士のためのオリエンテーション	活推協事務局及びボランティア委員会による、オリエンテーション

科目名	教育原理		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択
担当教員	石堂 常世, 佐久間 邦友			
開講期	I			
授業概要	本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。 さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きのスタンスをを培うようにする。 ＜履修カルテの評価項目：到達目標＞ ①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。 ②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。 ③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。 ④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にではなく、原理的に考察できるようになったか。			
達成目標	＜履修カルテの評価項目：到達目標＞ ①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。 ②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。 ③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。 ④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にではなく、原理的に考察できるようになったか。			
受講資格	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択 短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択 短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	成績評価 方法	①授業中に1～2回レポートを課し、次の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価が10％ ②学期末筆記試験の結果が80％ この2つの総合点に、授業中の積極性が見られた場合は加算、欠席等が多い場合やレポート提出がない場合は減点措置をとる。	
教科書	教科書は特に定めない。 その代わり、毎回の授業にはその日の授業内容を詳述したレジュメ（内容の中身）を配布するので、それらを「教育原理」専用ファイルに綴じ、授業の際には必ず持参し、試験前にはしっかり再読して、常に理解を深めること。 尚、以下の参考書の欄を参照。			
参考書	①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世編著『最新教育原理』勁草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。 ②一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書など、多数あります。いずれにしても、授業中に教えます。 それら指定資料は、おおむね図書館に揃えてあります。			
学生への要望	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐるアクティブな意見交換の形式を導入することで、教育問題への考察を習慣づける。したがって、受講生には主体的な学習を求める。 1 学問的要望 教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがあって、それを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を理解することで主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想や教育論を生きて理解することができる。 授業中に出てくる思想家、哲学者、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、その次の授業までに可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、それらのコピーを取っておいて知識を確実にしよう。 2 守るべきこと ・毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 ・参考書は授業中に指示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業に、そのファイルを持参すること。 ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 ・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出しても認められない。通常はA4の用紙に印字してくること。 ・授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。			
オフィスタイム	随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。 石堂：ishidoh@koriyama-kgc.ac.jp 佐久間：kunitomo@koriyama-kgc.ac.jp 即時にメールで日時や面談場所を返信し、確認し合って質問、相談に応じます。			
自学自習	当然ながら、授業中に出された調べ学習は自学的「予習」となる。授業後の内容理解の「復習」は、教育を見る目を発展的に伸ばしてくれる。教育を見る目に変化が出てくるはずである。			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	主観的体験・主観的見方から客観的見方への転回へ 1 家庭教育という人間形成の基盤 レポート（次回提出）「私の受けた家庭教育の意義」 2 学校・社会から見た教育の構造 家庭教育、学校教育、社会教育 3 教育学の構造を知る 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置

科目名	教職論		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	佐久間 邦友				
開講期	Ⅰ				
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 授業のねらいは、教職についての基本事項(教職の意義、教員の役割等)を把握し、現行教員養成制度の原理とその課題について理解し、それに対応する力を身につけ、自らが教育の専門職としての教師像・観を形成できることを到達目標とする。 〔授業全体の内容の概要〕 授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また現役の教員をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。				
達成目標	①教職の意義や教師の役割、責務をどの程度理解できたのか。 ②教師に求められる資質能力を理解し、己の教師観を確立することができたか。 ③現代の教育課題について理解することができたのか。				
受講資格	教職等に就くことを希望する者			成績評価 方法	試験(70%)、レポート(20%)、授業参画度(10%)
教科書	佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房 2015年				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。				
オフィスタイム	月曜Ⅲ限(12:50~14:20) 木曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。				
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと(1時間) 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ(1時間)				

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教師の影響力を考える

平成29年度

科目名	社会福祉概論	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	添田 祐司			
開講期	Ⅲ			
授業概要	社会福祉学は人間の幸福を追求する理論と実践を扱う学問である。社会福祉とは何かから始め、今日の社会の変化と、それに対応する社会福祉の動向を学び、さらに、現実の社会福祉がどのような役割を担っているのかを学ぶ。			
達成目標	①社会福祉とは何か、社会福祉がどのような役割を担っているのか理解できたか。 ②今日の社会の変化と社会福祉の動向を理解できたか。			
受講資格	音楽療法士養成課程受講者	成績評価 方法	定期試験70％、コメントシート30％。 出席状況により減点あり。	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	「社会福祉を学ぶ」 株みらい			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	月曜日Ⅰ時限・Ⅱ時限 創学館4F、No.2研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートをまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	福祉って何だろうかを考える。

平成29年度

科目名	生理学	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	金子 依里香			
開講期	Ⅳ			
授業概要	[授業の目的] この科目は音楽療法士（二種）養成の教育課程科目の一つである。音楽療法士に必要なとなる、人体の仕組みと働きについての理解を深める。 [内容の概要] 細胞の構造、骨格系、筋系、神経系、循環器系、消化器系、呼吸器系、生殖系および内分泌系など、人体の構造とそれらの機能について系統立てて学ぶ。			
達成目標	[到達目標（授業終了時の達成課題）] 身につけた生理学の知識をいかし、音楽だけでなく科学的な視点から人々の心身の健康に働きかけることができる。			
受講資格	特になし		成績評価 方法	授業中に課す4回のミニテスト20点および期末試験80点満点の100点満点で評価する。60点以上で単位を認定する。
教科書	久木野憲司 著 「解剖生理学」金原出版株式会社、京都（20・第7刷）2,700円（税別）			
参考書	高校で使用した生物基礎の教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業中はしっかりノートを取り、集中して受講すること。また、事前、事後学習を行うこと。 事前学習：教科書を読みながら、事前に配布する授業内容を抜粋した「予習プリント」を作成すること（1時間）。そのうえでその日の授業に臨むこと。 事後学習：「予習プリント」、ノートおよび教科書を使用し、授業内で配布する「確認プリント」を作成してミニテストに備えること（1時間）。			
オフィスタイム	水曜日および木曜日の5コマ目。 担当教員研究室			
自学自習	予習：前週に予習プリントを配布します。シラバイにある教科書の範囲をよく読んでプリントを完成させる（1時間）。 復習：授業後、教科書とノートをよく見直し、確認プリントを行う（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生理学総論	ガイダンスもかねて生理学の総論をはなす。音楽療法士において、この科目がなぜ必要なのかを学ぶ。

平成29年度

科目名	小児保健	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	永瀬 悦子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	人間の一生の中における小児期は絶えず成長・発達をしている。子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。 〔授業の目的・ねらい〕 小児保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法についての知識を習得し、小児に対する対応を身につける。			
達成目標	1) 子どもの成長・発達について理解する。 2) 子どもにみられる疾病とその対処法について理解する。 3) 子どもの救急処置（起こりやすい事故と応急処置、救急蘇生法）について理解する。			
受講資格	音楽療法士資格取得希望学生		成績評価 方法	期末試験80点、レポート・課題20点
教科書	山崎知克編著『子どもの保健Ⅰ－心身の発達・健康と安全－』建帛社 2016年 ※資料を随時配布			
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年			
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。			
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：20） 832研究室 木曜日 I 時限（8：50～10：20） 832研究室			
自学自習	予習：教科書・参考文献を読み、当日学修する内容をまとめておくこと（1時間） 復習：更なる課題に対して学修をして、考えを整理しておくこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	子どもの保育と保健	子どもの成長・発達の把握と評価の意義を理解する。

平成29年度

科目名	教育心理	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	I		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目指す。		
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。		
受講資格	短期大学部 家政科 福祉情報専攻 1年 短期大学部 生活芸術科 1年 短期大学部 音楽科 1年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、定期試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイム	金曜 2限 8 3 5 3限 8 3 5		
自学自習	関連文献などを利用して理解を深めること。		

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。 認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。

平成29年度

科目名	音楽療法士実習（施設介護実習、病院実習、社会福祉施設等体験実習を含む）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 3単位 選択	
担当教員	南川 肇			
開講期	Ⅲ			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 音楽療法課程科目で学んだことを、医療施設の現場において、体験、実践することで理解を深める。 〔授業全体の内容の概要〕 医療機関において、音楽療法を踏まえた実習を行う。			
達成目標	〔授業終了時の達成課題〕 実習を体験することによって介護についての理解を深める。			
受講資格	音楽科2年生	成績評価 方法	平常点40%、レポート60%	
教科書	必要に応じて印刷物を配布。			
参考書	なし			
学生への要望	健康に注意して、積極的な姿勢で臨んでほしい。			
オフィスタイム	火曜から金曜日、12:00～12:50 音楽科No.1 研究室			
自学自習	予習：実習内容となる、音楽、介護の準備をしてくること。（1時間） て、改善点等を考慮し、改善に努めること。（1時間）			復習：実習におい

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	実習オリエンテーション	実習に当たる、準備、心構え。